

お名前 宇田 操
ご住所 津市
発生時にいた場所 一志実業女学校 寄宿舎
当時の年齢 15 歳

昭和 19 年 12 月 7 日お昼前に大地震があった。当時一志実業女学校の寄宿舎にいた私は、大あわてで裸足のまま外へ飛び出した。防火用水の水が揺れでサッポンザッポンとかかってくる中を悲鳴を上げながら校庭の西にある竹やぶに向かってかけ出そうとしたが、あまりにも揺れが大きくて、(ちょうどバスが急停車した時のような)歩こうとしても歩けない。地面にはいつくばり、寄宿舎の屋根を見上げると、屋根は大きく波打ってゆさゆさと揺れている。何とか外の道へ這いながら出てみると、20 メートルぐらいに渡って地面に亀裂が入り、その幅は 20 センチぐらいあった。私の出身地当時は五ヶ所町(今は南伊勢町)だが、弟が小学校 4 年生まで、校舎が高台にあり、その土手から津波が寄せてくるのを見ていたという。学校の下は五ヶ所川という川であり、そのそばの道を父が必死で学校へ来てその川を津波がゴーゴーと何度も寄せて来るのを見ていたと聞いた。あとで見たら、海沿いの松林の松が根こそぎ田んぼの中へ運ばれ、舟も田んぼの中にいた。海ぞいの家はひどいことになったと聞いた。